

病院計画 画総覧

病院建設ラッシュ! 新制度に挑む

2013年版

発行 産業タイムズ社

東邦大、大橋病院移転で12年秋から実施設計

(学)東邦大学(東京都大田区大森西5-21-16)の医療センター大橋病院(目黒区大橋2-17-6、Tel.03-3468-1251)では、移転に向け10年度の基本構想策定に続き、11年度に基本設計案をまとめ、それを協議したうえで、12年夏から実施設計に取りかかった。移転用地は現病院から至近距離で、患者の利便性も高まる場所としており、病院西側の日本通運渋谷支店・研修センターが有力候補地。

大橋病院は建築後47年が経過、15年度の開学90周年の記念事業として、同年度の完成、開院を目指している。現在の大橋病院は、全体の敷地面積が8762㎡(うち病院用地7345㎡、建築面積4007㎡)と狭いため、移転新築する。病床468床を保有、建物規模は延べ2万2853㎡。

大橋病院は、22科目以上の診療にあたっており、地域医療への貢献と収益構造の強化のため、09年4月から脳卒中センターを開設、11年5月から電子カルテの運用を開始した。大橋病院の再整備は、ここ数年来の医療センター大森病院(大田区大森西6-11-1)改築、同センター佐倉病院(千葉県佐倉市下志津564-1)の増築増床、薬学部新棟建設に続く、大規模な施設整備事業。

昭和大学、12年度も新豊洲病院の建設継続

(学)昭和大学(東京都品川区旗の台1-5-8、Tel.03-3784-8000)は、12年度の事業計画として新豊洲病院の整備継続、附属病院への医療機器などの計画的導入、病院施設などの長期的な再整備の検討を行う。

昭和大学病院(所在地同)では、中央棟でクーリングタワー充填材、蒸気ボイラー、医療ガス供給装置の更新工事や冷温水発生機整備工事を行う。入院棟では、防排煙システム更新および防災盤改修、各階電灯分電盤改修および空調機更新、ファンコイル更新・洗浄、冷温水発生機整備、空調ポンプ分解整備、給水給湯配水管更新、ストレージタンク内コイル・配管更新の各工事を予定している。

また、機器では血液浄化センター機器、医療情報システム機器、入退室管理システムの整備・更新やダ・ヴィンチサージカルシステムの導入を進める。

昭和大学病院附属東病院(東京都品川区西中延2-14-19)では、熱源機器更新や外壁パネル(高階層)塗装工事を行い、機器では入退室管理・監視システム、医療情報システム機器、白内障・硝子体手術装置をそれぞれ更新する。

藤が丘病院(横浜市青葉区藤が丘1-30)では、救急機能集約のための改修工事(3階)と手術室改修工事(3階)、PAC-2(3階手術室用)更新、SCUのさらなる充実、プレハブ撤去工事、実習受入環境整備、空調更新工事を行う。機器では、全身用X線TV診断装置、各種パラメーター付項目モニターなど、オーダリングシステム端末機、高圧酸素治療装置機器をそれぞれ更新する。

藤が丘リハビリテーション病院(横浜市青葉区藤が丘2-1-1)では、内科系医師の常勤化によりベッド稼働率が改善。さらに藤が丘病院とベッド管理を一元化することで、積極的な入院患者の受け入れを行い、スタッフも外来から入院部門にシフトし、リハビリテーション病院で入院に特化したリハビリを実施する。機器では、内科系医師の常勤化に伴い、重篤な基礎疾患を持った入院患者が増加したため、監視モニター不足解消の重要パラメーター付項目モニターなどを更新する。

横浜市北部病院(横浜市都筑区茅ヶ崎中央35-1)では、12年2月に診療放射線専門学校跡地に西産科病棟(マタニティハウス)を開設、ハイリスクとローリスクの分娩を明確化した。手術枠の3割(7000件中2100件)を占める局所麻酔手術は、中央棟3階のリカバリー室を改修して確保する、局所麻酔小手術専門手術室に移設する。西棟2階病棟では、現行の精神科50床を42床の精神スーパー救急病棟に改修する。このほか、中央棟誘導灯更新工事、直流電源装置バッテリー・部品交換、CGS発電機設備機器更新工事、外来系タイルカーペット更新工事を予定している。

鳥山病院(東京都世田谷区北鳥山6-11-11)では、臨床薬理研究センター(44床、11年10月運用開始)の整備に伴い、慢性期の精神疾患患者の入院治療が困難となるため、連携強化で退院、転院を促進し、訪問看護の充実などを図る。整備事業ではC4病棟特別個室4人床化の改修工事を行う。また、新たな情報システム構築のため、12年度に検討委員会を立ち上げて、導入に向けた分析を進める。

2. 省エネ保証の ESCO と急増する BEMS

ESCO、BEMSでエネルギー効率化

ESCO事業の普及を図るESCO推進協議会が発足して、2012年10月で13周年を迎えた。10年7月には一般社団法人化に伴い、一層の事業展開の強化に取り組んでいる。

国内においては、病院、工場、商業施設など広く民間企業から、公的機関・施設にまで採用事例を積み上げてきている。これは、ESCO事業者がオーナーに施設改修による光熱費の削減を保証し、それを実証してきた結果である。

また、日本の省エネ技術は、経済成長に伴いエネルギー使用量が急増しているアジア諸国においては垂涎的であり、ESCO推進協議会では、それに対応して各国を招いてのコンファレンスの開催や、隔年のアジア

ESCOコンファレンス開催を行っている。こうした活動を通じて、アジア全体の省エネルギーを推進するとともに、我が国のESCO事業関連者とアジア諸国のキープレーヤーとの連携を強化、ESCO事業者の事業機会の発掘につなげている。

BEMS機器・システムの導入を支援する、一般社団法人環境共創イニシアチブ(SII)では、BEMSとHEMS機器・システム導入事業者への補助金300億円を確保、2012～13年度の2カ年にわたり、補助を行い、「電力消費の見える化」による節電、省エネルギー達成を支援する。

SIIが認定したBEMSアグリゲータが導入予定事業者のコンサルティングから、提案、機器・システムの設置・導入、その後の定期サービスや新たな省エネ機器の導入までサポートする。

一般社団法人 ESCO 推進協議会

経費削減保証で実績伸長

【事務局】〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-33 Tel.03-3234-2228

【主要事業】ESCO事業の普及・促進と市場開拓、国内外のESCO関連情報の提供／ESCO関連機関との情報交換、ESCO事業に係る省エネルギー関連技術の研究開発支援

推進協議会が国内ESCO事業を推進

ESCO(Energy Service Company)事業は、1970年代に米国で始まり、1990年代後半に我が国に導入され、ESCO推進協議会(JAESCO)が推進役となり、ESCO事業が病院や福祉施設、ホテル、大型商業店舗、ショッピングセンター、オフィスビル、工場といった民間企業をはじめ、自治体や大学、研究機関など数多くの様々な施設へ導入され、普及した。

普及の原動力となったのは、省エネ効果によるエネルギー費用の削減を保証する仕組みであり、大きく分けてギャランティード・セイビングス(自己資金型)契

約とシェアード・セイビングス(民間資金活用型)契約がある。いずれの契約も、オーナーとESCO事業者の双方に利がある事業といえる。

ギャランティード・セイビングス契約では、改修の初期投資はオーナーが行うが、ESCO事業者がオーナーに改修による光熱費の削減を保証することから、現実的にはオーナーは経済的負担がない。光熱費の削減分を償還原資として、初期投資の借り入れの返済に充てながら、一部をESCOサービスの報酬としてESCO事業者を支払う。

シェアード・セイビングス契約では、ESCO事業者が金融機関から借り入れなどにより改修のための資金

富山県

地域医療再生でリハビリテーション病院新設

富山県(富山市新総曲輪1-7、Tel.076-431-4111)は、2017年までの地域医療再生計画で総額約147億円を予定しており、リハビリテーション新病院には全体の半分である74億円をかけ、残りの73億円規模を災害医療体制の強化に充てる。災害時の耐震化のために黒部市民病院は改築する。

同県では、地域医療再生計画の中でリハビリテーション医療の質の向上を図るため、県のリハビリテーション医療の中核施設であり、富山県リハビリテーション支援センターでもある高志リハビリテーション病院を、高志通園センター(診療所)、高志学園(病院)とともに再編し、新病院として再生する。2病院1診療所を1病院に統合することで、回復期リハビリテーション推進拠点の充実強化を図る。この再編で、同病院と一体化する高志学園と高志通園センターを、新病院の附属子どもセンターとして位置付け、多職種連携によるチーム医療体制を強化するなど、重症児などへの対応力を強化し、さらに特別な医療ニーズを持つ小児への支援拠点施設としての役割も果たせる。新病院の事業総額は74億円で、その中で建築費は60億円、設計監理料・外構工事費は5億円、その他医療設備として6億円、電子カルテで3億円を見込む。12年度に基本・実施設計を外部委託で作成し、13年度に建設工事に着手、15年度半ばの完成を目指す。

富山県はまた、災害医療体制の強化総事業費として72億7351万7000円を計画している。これは、東日本大震災を教訓として、災害拠点病院の耐震化推進や機能の強化、災害医療に携わる人材の育成、DMAT(災害派遣医療チーム)、JMAT(日本医師会災害医療チーム)などの機能強化など、災害医療体制の強化を図るもの。災害拠点病院の耐震化では、県内で唯一耐震化されていない拠点病院である黒部市民病院の耐震化改築工事を支援し、県内災害拠点病院の耐震化率100%を目指す。また、災害時には、被災を免れた病院が被災病院の機能を代替することで、地域医療を支えることができる体制を構築しておくことが重要であるため、災害拠点病院を現在の7病院から8病院(厚生連高岡病院を追加)に増やすとともに、これらの病院の機能強化を図

るため、各病院の医療機器整備等に対して支援する。

黒部市民病院の耐震化改築に54億円

黒部市民病院の耐震化改築工事に対する支援には、事業総額54億円(基金負担分19億円、事業者負担分52億1000万円)を計画する。同病院は、病棟および高度医療棟を除く医療機能を導入する新外来診療棟の建設に向け、11年度中に実施設計を完了させ、12年度から新外来診療棟の第1期工事および老人保健施設の改築事業に着工する。第1期工事は、12年7月から着工し、13年10月に完成、新外来診療棟は外来部門の一部と2階のリハビリセンターの供用を開始する。また、現在の老人保健施設カリエールに代わる新しい施設と、やわらぎデイサービスセンターの合築施設も第1期工事で建設する。現在のカリエールは定員50床、通所10人。第1期完成後にリハビリセンターや現在の老人保健施設を解体し、2期工事に備える。第2期工事は、その跡地を利用して14年3月から着工し15年12月に完成、その後、16年10月から17年3月にかけて正面入口の整備などを終え、一連の整備を完了する。

基幹災害医療センター(県立中央、富山大学附属病院)の機能強化では、事業総額として2億円(基金負担分1億円、県負担分1億円)を予定する。これにより、県立中央病院で、災害・救急医療の強化を図るための医療機器整備などに対して支援する。同県では、富山大学附属病院も基幹災害医療センターとして災害拠点病院指定しており、同病院では、災害医療に精通した医療人材育成を目的とした事業を実施する。

地域災害医療センターを機能強化

地域災害医療センター(黒部市民、富山市民、富山赤十字、高岡市民、市立砺波総合病院)の機能強化は、事業総額8億円(基金負担分4億円、事業者負担分4億円)とする。これは黒部市民病院を除く4つの地域災害医療センターで、災害・救急医療の強化を図るための医療機器整備などに対して支援するもの。地域災害医療センター指定予定病院(厚生連高岡病院)の機能強化は、事業総額2億円(基金負担分1億円、事業者負担分1億円)とする。厚生連高岡病院は地域災害医療センターに指定予定であり、県内被災時には被災地での医療提供

国立病院機構 山形病院：建て替え

【所在地】〒990-0876 山形県山形市行才 126-2 Tel.023-684-5566

【開設者】(独) 国立病院機構 【院長】 圓谷建治 【事務長】 一

【診療科目】 内、神、呼、小、精、リハ、歯、耳、整、循、皮 【病床数】 308床 (一般258、結核50)

【計画地点/規模】所在地に同じ/RC造り6階建て延べ約1万1701㎡

【事業費/着工/完成】22億円/2011年度/2013年3月

【設計/施工】INA新建築研究所/ナカノフドー建設

【計画内容】同病院は、1974年に創設された国立療養所山形病院として開設、04年から国立病院機構山形病院に名称変更した。今回、耐震なども考慮し、病棟として利用している東棟(3階建て)、西棟(3階建て)、北棟(平屋建て)を集約する形で、新病棟を建設する。建設地は、敷地内で駐車場として活用している場所。計画では、RC造り6階建て延べ約1万1701㎡の施設を建設、305床の病床を集約する。また、施設の一部には機能訓練施設を併設する。なお、新病棟の完成後、西棟および北棟(計5092㎡)は解体して駐車場などに活用する予定。一方、同病院ではMRIなどの大型医療機器の更新を10年近く行っていないため、新病棟の建設を機に更新を行う方針である。

篠田総合病院：改築

【所在地】〒990-0045 山形県山形市桜町 2-68 Tel.023-623-1711

【開設者】(医) 篠田好生会 【院長】 篠田昭男 【事務長】 一 【診療科目】 内、消、循、呼、神、小、外、整、脳、産など 22科

【病床数】 383床 (療養 102、一般急性期 161、障がい者 59、回復期 54、ドック7)

【計画地点/規模】所在地に同じ/5階建て延べ6500㎡

【事業費/着工/完成】一/2010年度/2013年内

【設計/施工】山下設計/清水・市村工務店JV

【計画内容】同病院は、1994年竣工の本館(5階建て)と78年竣工の北病棟などで構成。築後32年が経過し老朽化が進んだこと、また耐震性の問題もあり、222床が設置されている北病棟(4階建て延べ約3400㎡)を改築することになった。改築にあたっては、病院内の小規模な施設計3棟を解体して、跡地に新病棟を建設する。規模はRC造り5階建て延べ約6500㎡。敷地が狭く病院運営を続けながら工事を進めるため、工事は3期に分けて実施。1期工事は11年3月から12年7月までの工期で実施し、全体の約70%の工事が完了。222床の導入が完了した。引き続き2期工事を12月までの工期で実施、3期工事を13年から着手する予定であり、内部にはリハビリ、人工透析部門を導入する。

矢吹病院：移転改築

【所在地】〒990-0043 山形県山形市本町 1-6-17 Tel.023-641-7330

【開設者】医療法人社団 清永会 【院長】 矢吹清隆 【事務長】 一

【診療科目】 内、腎、消、外、整形外科、リハビリテーション科 【病床数】 55床 (一般29、療養26)

【計画地点/規模】山形市嶋北4-5-5/S造り3階建て延べ約4200㎡

【事業費/着工/完成】一/2012年8月/2014年9月

【設計/施工】ハル建築研究所/安藤建設

【計画内容】矢吹病院は、1991年の建設であり、これまで利便性や快適性を追求し改築を行ってきたが、配管や配線の傷みかひどく、加えて都市計画の関係で病院西側の道路幅幅が行われることになり、18年には外来スペースの大部分が削減される見通しとなっていることなどから、社団清永会が運営する矢吹嶋クリニックの駐車場スペース約6000㎡に新矢吹病院として移転する。移転により病床数は15床減床した一般病棟のみの40床とし、入院患者専用の透析室、カフェレストラン、シャントトラブル対応のアクセスセンターを設置する。また、電子カルテを導入し、外来、透析センター、病棟、さらに2つのクリニックを結び法人全体で患者のデーターを共有する。

倉敷中央病院：増改築

【所在地】〒710-8602 岡山県倉敷市美和 1-1-1 Tel.086-422-0210

【開設者】(財)倉敷中央病院 【院長】— 【事務長】— 【診療科目】内、外、消、呼、皮、循、産婦、精、耳鼻、眼、リハビリ、歯など32科 【病床数】1151床(一般1141、第2種感染症10)

【計画地点／規模】所在地に同じ／地下1階地上5階建て延べ1万2967㎡

【事業費／着工／完成】約200億円(総額)／10年12月／13年

【設計／施工】ユニー・アール設計／藤木工務店

【計画内容】10年、20年後を見据えた医療体制を整えるため、病棟全体の整備を実施している。現在は、二期工事にあたる低層階の増築工事を進めており、2013年に数年に渡り整備された病院全体の供用開始を予定している。全体の整備計画では、敷地面積8万1622㎡に増築棟を含む5病棟の新設および改修を行う。二期工事では、一期工事で10年8月に完成した新3病棟(地下1階地上14階建て)の南側に増築棟を建設。増築棟は地下1階地上5階建て延べ1万2967㎡の規模で、手術センター、集中治療室、救急医療センター、入退院支援センターなどを設ける。また新3病棟と接続し、3病棟として運用する予定である。

高梁市国民健康保険 成羽病院：建て替え

【所在地】〒716-0111 岡山県高梁市成羽町下原 301 Tel.0866-42-3111

【開設者】高梁市 【院長】森脇洋吉 【事務長】— 【診療科目】内、小、外、整、皮、婦、眼、耳鼻、放、リハビリなど10科目 【病床数】136床(一般106床、医療療養30床)

【計画地点／規模】所在地に同じ／RC造り4階建て延べ7266㎡

【事業費／着工／完成】約21億円／11年9月／12年度内

【設計／施工】大建設計・木村建築設計事務所JV／戸田建設

【計画内容】現在地での建て替え事業で、新病院はほぼ完成しており、2012年9月より外来診療を開始している。残る東館の修繕工事と旧病院の解体を終えた後、外溝工事に着手し12年度内の事業完了を予定している。新病院では診療科目は現行を維持する一方、病床は96床に減少させる。その内訳は一般54床、医療型療養病床42床とし、うち1室は感染症患者対応の陰圧室とする。個室化率も高め、計32床を個室とするが、差額ベッド料金徴収目的だけでなく、重篤患者への対応にも配慮した結果としている。

渡辺病院：移転新設

【所在地】〒718-0011 岡山県新見市新見 2032-15 Tel.0867-72-2123

【開設者】(医)思誠会 【院長】遠藤彰 【事務長】—

【診療科目】内、胃腸、循、外、整、脳外、皮泌、放、リハビリ、麻 【病床数】98床(一般60、療養38)

【計画地点／規模】新見市新見／—

【事業費／着工／完成】—／11年度／14年度

【設計／施工】木村建築設計事務所／—

【計画内容】老朽化と狭隘化のため移転新設を計画している。移転予定地は現在地から2km離れた県有地の一角。救急搬送時の中継機能、救急措置後の回復期リハビリ機能を充実させたいとしている。実施に当たっては、病床を88床へ減少させる予定だ。



書名病院計画総覧 2013年版
体裁・頁数B5判 オフセット刷り 632頁
定価25,200円、〒共